

～～第8505回～～

鷲羽岳～水晶岳

～H30. 8. 16-19～

初日の16日は移動のみのため、いつもよりは余裕がある。高速道路を使わずに登山口近くの七倉山荘に自家用車2台、10名で向かう。山荘という名前ながら温泉・ウォシュレット完備の立派な民宿だ。バーベキュー風の夕食を楽しんだ後は、翌日に備え早めに寝床に着く。二日目、宿からの情報によれば、初日に降った雨の影響で高瀬ダムまで向かう道路の状況を東電が点検するまで通行できないとのことで、山荘で待機することになった。出だしからスケジュールに狂いが生じた。おまけに丸太橋が流されたので渡渉が必要とのこと。やや暗鬱な気持ちで東電のパトロール車を待つこと2時間あまり、ようやく8:00にOKが出てタクシーでゲートをくぐった。ところが暫く走ったところで道路に直径1mを超す落石があり東電職員がタクシーを通させるか相談を始めた。点検したあとに落ちてきた石と思われる。待機した分、タクシーが数珠つなぎになっていたこともあり、石を避けて通すことになったが、一段落してから通行止めにしたそう。高瀬ダムまではおよそ15分。ここから歩きとなる。トンネルを抜け、つり橋を渡り河原に着く。意外に水量は少なく、靴を脱がずに渡渉することができた。渡った先にある登山口から、いきなり急登となるブナ立尾根をスタートする。急ではあるがよく整備された道で危険な箇所はない。烏帽子小屋まで歩く目安となる12個の標識があり、おおよそ2個分で一回休憩がちょうど良さそうだ。つづら折りの道をひたすら登り、「権太落とし」や「タヌキ岩」と呼ばれる大岩を過ぎると、眼下の高瀬ダムをはじめ周囲の山々の展望も良くなる。登り始めて4時間を超え、ようやく稜線に出る。烏帽子小屋はそこからやや下ったところにある。いよいよ裏銀座縦走コースの始まりである。キャンプ指定地で一旦下るが、すぐに三ツ岳に向かって登り返す。空は晴れ渡り、ガスのかかった山も一つも見当たらない。めったにない最高の天気恵まれた。左手は槍ヶ岳や表銀座の山並み、右手は赤牛岳、水晶岳の山容と、素晴らしい展望を楽しみながらの稜線歩き。久々の快感だ。三ツ岳の頂上を巻くように過ぎると、なだらかな稜線へと変わり正面に野口五郎岳がだんだん大きく見えてくる。大きな石が積み重なった道をしばらく進むと、宿泊先の野口五郎小屋が見えてきた。建つ場所からして、水が貴重な扱いとなるだろうと想定できる。出だしの遅れもあり小屋には17:00到着となってしまった。今宵は布団一枚に一名と恵まれたが、室温がかなり低い。皆、震えながら布団にくるまる始末であった。三日目。行動時間が長いため、小屋で弁当を用意してもらい、3:50に出発する。ダウンジャケットを着用しないと寒くてたまらない。霜柱もたっており、昨夜は寒かったわけだ。しばらくヘッドランプをつけ砂礫の道を進むが、遠く水晶小屋の灯りがまだ明けぬ闇夜にポツンと光っている。真砂岳の西側を横切ると竹村新道への分岐に出る。湯俣方面への道はどうやら増水のため通行止めのようだ。このあと道は西方向となりしばらく行くと東沢乗越で、ここから先はやせ尾根の急な登りとなる。足元に

注意を払いつついくつかピークを越えて水晶小屋に到着する。増築したとのことで、外付けトイレも新しく清潔感にあふれていた。小ぶりだが、重要な中継ポイントに位置する小屋だ。ここからまず北側に位置する水晶岳を往復する。小屋からさほど遠くはないが頂上に近づくとつれ岩稜の急な登りとなる。水晶岳は双耳峰で南峰のほうがやや高いが、三角点は北峰にある。ともに頂上は狭い。本日も快晴に恵まれ、ぐるり 360 度の北アルプスの山並みを短時間で目に焼き付け、小屋に戻る。続けて南側の鷲羽岳に向かう。ゆるやかな下り道をしばらく行くと雲ノ平へ向かう分岐に到着する。黒部川源流もこちらの方向である。ここで多少荷物を軽くしていく人が多いようだ。まずは目の前にそびえるワリモ岳の急登を登る。頂上のほんのすぐ西側下を巻いて、今度はぐっと下る。再び同じような急登を登り返し、小屋からおよそ 2 時間、鷲羽岳の頂上にたどりついた。こちらも抜群の景色。槍ヶ岳と北鎌尾根をはじめ雲ノ平、黒部五郎岳などの山容もくっきりと見える。鷲羽岳は北アルプス随一の眺望と書いている本もある。ここから来た道に戻るわけだが、だいぶ日差しも強いためじわじわと疲労感が増してくる。食欲は湧かないが野口五郎小屋製のおにぎりを無理矢理流し込む。まだ先は長い。水晶小屋まで戻り、ここで大休止をとり、体調を整える。小屋から先に続く登山道を見やると、10 人以上のパーティーが二組見える。時間からして野口五郎小屋に宿泊であろう。今夜は混みそうだ。ややペースを落とし気味に我々も後を追う。朝は巻いてきた野口五郎岳のピークを踏んで、ようやく小屋に到着する。行動時間は 13 時間弱、喉も渇いていたこともあり缶ビールがまことに美味い。クールダウンを行い、小屋に入ると今日は暖かかった。その代り布団二枚に三名、これはまあしょうがないことだけど。四日目。小屋の早い朝食をすませ 5:50 に出発する。愛想の良い小屋番が、我々の姿が見えなくなるまで見送りしてくれた。裏銀座を逆にたどるわけだが、なんと今日も天気が良い。今度は手前に見える針ノ木岳をはじめ、立山連峰、後立山連峰ともに堪能しながらの縦走だ。烏帽子小屋までたどり着いたところで、ザックをデポして烏帽子岳に寄っていくことにする。前烏帽子岳のハイマツと白砂のコントラストは燕岳にそっくりな感じだ。その先にまさに烏帽子のごとく先の尖った岩山が見える。歩く距離はさほどではないが、鎖場が何箇所もあり慎重さが必要だ。その形のとおりこのピークはしっかりと立てるような場所がないので、登り切れるところまでで良しとするしかない。小屋までの帰り道、快晴なのに珍しく雷鳥をみかけることができた。裏銀座をたっぷりと満喫し、ブナ立尾根を下る。下山では、12 個の標識の 3 個分が休憩の目安という感じであった。登りが急登だった分、膝に多少負荷はあるが下りはやはり早い。2 時間半ほどで登山口に到着した。河原について驚いたことに、水の流れる筋道を工事でガラッと変えており、直径 50 センチほどの立派な丸太を数本組んだ橋も架かっていた。我々が上にいる間に完成させたわけだ。であるなら、高瀬ダムの通行止めも解除済みであろう。案の定、ダムにタクシーが待機していたため、七倉山荘まで歩かなくて済んだ。山荘の温泉で四日間の疲れを洗い流し、帰路についた。

参加者：10名（静岡北8、島田1、磐田1）

天候：1日目（雨のち曇り）、2日～4日目（快晴）

コースタイム：2日目より 七倉山荘 800＝高瀬ダム 815…登山口 900…権太落とし 950
…三角点 1130…烏帽子小屋 1315…野口五郎小屋（泊）1700-350…東沢乗越 615…水晶小
屋 710…水晶岳 805…水晶小屋 840…ワリモ岳分岐 910…ワリモ岳 1000…鷲羽岳 1030…
ワリモ岳 1115…ワリモ岳分岐 1140…水晶小屋 1250…東沢乗越 1315…竹村新道分岐 1455
…野口五郎岳 1555…野口五郎小屋（泊）1615-550…烏帽子小屋 830…烏帽子岳 915…烏帽
子小屋 1000…三角点 1050…登山口 1230

記録：静岡北支部 中尾